

2024年度「駿大社会人基礎力アンケート」回答結果

依頼数579社、回答数144社
2024年度データ：青
2023年度データ：オレンジ

本学では、ディプロマ・ポリシーに基づき、学生が社会で求められる5つの基礎力（基礎的な力、考える力、行動に移す力、協働する力、総合的な力）を身につけることを目指しています。これらの教育目標の達成度を検証するため、2023年度卒業生を採用した企業・団体を対象にアンケートを実施しました。卒業生の基礎力の発揮状況を把握し、教育プログラムの改善に役立てることを目的としています。

企業が採用時に評価した基礎力の中で最も高く評価されたのは「協働する力」（63.9%/92社）で、これはコミュニケーション能力やチームワークの重要性を反映しています。また、「行動に移す力」（55.6%/80社）も比較的高い評価を受けており、学生が主体的に行動する姿勢が評価されています。一方、企業が不足を感じた基礎力には、「行動に移す力」（41.0%/59社）と「考える力」（38.2%/55社）が挙げられ、学生には物事を多面的に捉え、論理的に考え、さらに行動に移す力を向上させる必要があることが分かります。特に、行動力については一定の評価があるものの、さらに改善の余地があると考えられます。

また、企業が採用時に重視する基礎力としては、昨年同様「協働する力」（77.1%/111社）と「行動に移す力」（73.6%/106社）が高く求められています。これは、現代の職場では単独の作業よりも、多様な人々と協力して仕事を進める能力が重視されていることを示しています。企業は学生に対し、協働力や行動力を期待する一方で、論理的思考力や課題解決力の強化が今後の課題となります。

採用時より身につけていたと思われる基礎力

1. 基礎的な力（言語処理力、非言語処理力、情報収集力）	86社	(59.7%)	(63.8%)
2. 考える力（論理的・多面的思考力、情報処理力、構想力）	67社	(46.5%)	(38.7%)
3. 行動に移す力（主体的行動力、自己統制力、自信育成力）	80社	(55.6%)	(46.6%)
4. 協働する力（コミュニケーション力、統率力、チームワーク力）	92社	(63.9%)	(65.0%)
5. 総合的な力（課題発見力、計画力、問題解決力）	31社	(21.5%)	(19.6%)

採用時、不足していたと思われる基礎力

1. 基礎的な力（言語処理力、非言語処理力、情報収集力）	21社	(14.6%)	(19.6%)
2. 考える力（論理的・多面的思考力、情報処理力、構想力）	55社	(38.2%)	(37.4%)
3. 行動に移す力（主体的行動力、自己統制力、自信育成力）	59社	(41.0%)	(38.7%)
4. 協働する力（コミュニケーション力、統率力、チームワーク力）	39社	(27.1%)	(24.5%)
5. 総合的な力（課題発見力、計画力、問題解決力）	49社	(34.0%)	(38.7%)

採用する際に重視したい基礎力

1. 基礎的な力（言語処理力、非言語処理力、情報収集力）	59社	(41.0%)	(42.3%)
2. 考える力（論理的・多面的思考力、情報処理力、構想力）	66社	(45.8%)	(48.5%)
3. 行動に移す力（主体的行動力、自己統制力、自信育成力）	106社	(73.6%)	(68.1%)
4. 協働する力（コミュニケーション力、統率力、チームワーク力）	111社	(77.1%)	(77.3%)
5. 総合的な力（課題発見力、計画力、問題解決力）	60社	(41.7%)	(40.5%)